

髪形、持ち物…どこまでOK?



全校生徒から寄せられた意見を基に校則の見直しを検討する生徒会役員ら
＝9月下旬、壬生中

県内中学校

県内の中学校で、生徒が主体的に校則を見直す動きが広がっている。社会の変化や生徒の実情に応じて快適な学校生活を送るための取り組みで、生徒会を中心に頭髪や持ち物などのルールを話し合っている。文部科学省の有識者会議は8月、教員用の手引書を改訂。不合理な校則の是正に向けて子どもたちの意見を反映し、検証して見直すことなどを盛り込んだ。主体性や対話を重視した学びや多様性の尊重を背景に、生徒主体の校則見直しはさらに進みそうだ。

(宇留野有貴)

「みんなのための校則だから、みんなの言葉で考えよう」。9月下旬、放課後の壬生中。小林優芽教諭(26)の話で生徒会役員の議論が始まった。テーマは禁止されている「眉そり」と、男女別に細かく規定された「髪形」。全学級での話し合いの結果を踏まえ、見直しの素案を練った。同校は今夏、学校を挙げて校則見直しに着手。生徒の当事者意識の醸成や民主主義を学ぶ機会にすることが狙いで、保護者へのアンケートも実施した。3年の石嶋彩音会長(15)は「前髪協の横髪を出さない、ヘアピンは左右1本ずつなど時代にそぐわない内容が多いと感じていた。やっと見直しにこぎ着けた」と手応えを語る。

A みんなで見直す

(2022年11月4日付・下野新聞1面)

記事は加工しています

生徒主体、広がる議論の輪

「教員も納得した上で指導しないと生徒の理解を得にくい」と小林教諭。「生徒には自分たちで決めたルールを守る責任を持つてほしい」と願う。保護者や地域住民の意見も取り入れ、校長の承認を得て来年度の正式運用を目指している。広域から生徒が通学する佐野高付属中は、携帯電話の校内持ち込みについて、生徒会を中心に昨年から検討を続けてきた。現在は禁止だが、今月中旬から電車通学者らに必要な生徒に限り、認める制度を試行する。青柳育夫校長は「自分たちでルールを作り上げた過程を評価したい」と前向きにとらえた。

時代背景や社会の要請で作られた校則の中には、必要性が失われた後も存続してきた内容がある。作新学院大の木村直人特任教授はそう指摘する。

「子どもの主体的な学びを目指す教育を進めれば、自分たちで学校生活をより良くするための決まりを作り、守る活動が必然となる」と説明。「取り組みには教職員や保護者、地域の協働が欠かせず学校と教員の力量が必要」としている。

設 問

【1】生徒が主体的に校則を見直す動きがありますが、その目的は何ですか？

【2】文科省の有識者会議が改訂した教員用手引書には、不合理な校則の是正に向けてどのようなことが盛り込まれましたか？

【3】Aには漢字2文字が入ります。記事をよく読んで、適語を答えましょう。

【4】自分たちで学校生活をより良くするための決まりを作り、守る活動に欠かせないことは何ですか？

【5】全国の校則をめぐる学校の動きについて調べ、自分の意見をまとめてみましょう。